

# 令和5年度アスベスト大気濃度調査検討会

## 議 事 録 概 要

### 1. 日 時

令和6年2月15日（木）10：20 ～ 11：40

### 2. 場 所

W e b 会議形式

### 3. 出席者

（座長） 山崎淳司座長

（委員） 貴田晶子委員、小西淑人委員、寺園淳委員、濱脇亮次委員、  
平野耕一郎委員

（環境省） 環境汚染対策室 鈴木室長  
児玉室長補佐  
桑原室長補佐  
松永係員

（事務局） 株式会社環境管理センター

### 4. 議 題

- （1）令和5年度アスベスト大気濃度調査結果について
- （2）令和6年度アスベスト大気濃度調査計画について
- （3）その他

### 5. 配付資料

資料1 令和5年度アスベスト大気濃度調査結果について

資料2 令和5年7月豪雨災害 災害時調査結果の報告

資料3 令和6年度アスベスト大気濃度調査計画(案)について

参考資料1 アスベスト大気濃度調査検討会設置要綱

参考資料2 解体現場の地点図及び現場写真【委員限り】

参考資料3 令和5年7月豪雨災害 調査地点写真【委員限り】

※本年度より、濱脇亮次委員が検討会へ参加された。

●議題（１）：令和５年度アスベスト大気濃度調査結果について

＜事務局より、令和５年度調査の結果について報告＞

【解体現場 No35 について】

- ✓ 石綿が漏れているということで問題。集じん排気装置を使用する前に業者は漏洩がないかの確認をしていたのか。実際に集じん排気装置が問題であったと思うが、除去業者の工事に関する管理体制が不十分であったと言わざるを得ない。除去業者の倫理問題、あるいは技術問題は十分に担保できる体制が必要だと強く感じた。（貴田委員）  
⇒集じん排気装置の確認については、業者に確認したところ、集じん排気装置の設置時にはスモークテスターによる確認、およびデジタル粉じん計での確認を行っているとのこと。その際、デジタル粉じん計は初期濃度が 0cpm だったこと、スモークテスターによる点検も漏れはなかったと聞いている。ただし、除去作業開始直後の数値は測定していない。（事務局）
- ✓ デジタル粉じん計による漏洩防止の基準濃度は 0 cpm でよいが、初期濃度 0 cpm はあり得ない。必ずカウントがでることを理解できていないということは、設置時の点検が理解できていないと思われる。調査員が集じん排気装置の設置点検について、説明できるよう、よく理解して現場に出てほしい。（小西委員）  
⇒調査員のチェックリストに追記を行い、調査前に集じん排気装置の点検方法についてもサンプリング担当者へ周知する。（事務局）
- ✓ 煙突除去工事の現場に行った際は、どういう手順で作業を行っているかをしっかり調べておいてほしい。また、煙突の頭頂部から漏れ出しをさせないために、負圧をどのくらいにしているかが重要である。ウォータージェット工法の場合は、養生内の負圧が－20～－30Pa 程度ないと、煙突上部の漏洩を担保できない。併せて除去した煙突断熱材の含水状況の確認も重要。水分量によっては飛散する可能性がある。（小西委員）
- ✓ セキュリティーゾーンの写真では、入口のカーテンが、反割れの 2 枚カーテンになっているが、これは反割れの後ろ側（作業室側）にもう一枚カーテンを設けて施工する事を指導してほしい。（小西委員）  
⇒ご意見について、報告書へ記載する。（事務局）
- ✓ 集じん排気装置出口でのデジタル粉じん計の上昇について、調査者が工事者及び自治体へ報告できたことは良いことだが、除去業者ではこのことについては発見できなかったと考えられる。デジタル粉じん計の上昇値を確認したのが誰であったのか、これを見逃した原因は何だったのか、が課題。漏れが起きたときに止める手段はデジ粉計の数値を確認し迅速に行う事が重要だが、これらができていなかった事をまとめて書いた方がよい。（寺園委員）
- ✓ ウォータージェットを使用して除去を行っているが、アスベストは種類によって沈降性が違うので、アスベストの特性がわかっているのであれば物性的な事を考え、作業を含め環境に

拡散させない事が重要。(平野委員)

- ✓ アスベストの種類による物性の違い(疎水性か親水性なのか等)、それから比重も非常に差がある。取り扱い方について、どこかで教育する機会があるとよい。(山崎座長)
- ⇒今後の検討課題として、頂戴する。(事務局)

#### 【解体現場 No36 について】

- ✓ 事前調査を十分行っていたかが問題。測定ではアモサイトとクリソタイルが出たが、事前調査ではクリソタイルしか確認できていない。事前調査をどうチェックしていくかが行政の能力を問われるところであり、労働者保護の観点から、事前調査の精度を上げることが必要。(貴田委員)
- ⇒今回の対象は立体駐車場だが、その周辺で内装工事や外壁工事を行っている状況だった。ただし、当該除去工事以外の場所の建材にアモサイトが入っているかどうか確認をしていないため、アモサイトの発生源は分からない。(事務局)
- ✓ 他に発生源があるの可能性があるのであれば、他の事前調査も確認させてもらうよう、強くお願いした方がいいようなまとめをしてほしい。技術的なことだけでなく、ソフト的なことも踏まえてまとめをつくり、今後の改善につながる内容にした方がよい。ミスを一般化し、他の現場でどう生かすかを検討化の成果にするとよい。(寺園委員)
- ⇒ご指摘の内容を踏まえ、報告書を作成する。(事務局)

#### 【その他】

- ✓ 解体現場でトラブルがない事がなかった。これについては、自治体の立入を増やしてほしい。石綿除去業、解体業の技術的な問題については、国の方で石綿除去業のマニュアルのようなものを作ってほしい。(貴田委員)
- ✓ 周辺で解体工事があれば、工事内容を掲示した看板があるので、そういう看板の撮影をしてほしい。(小西委員)
- ⇒該当の解体現場だけではなく、周辺の解体工事があれば、その看板についても撮影するようサンプリング担当者へ周知する。(事務局)
- ✓ 最近のアスベストの発生源としては、解体現場が中心にならざるを得ないので、そこへシフトしているのは良い。継続調査で濃度が上がっていないことを押さえることと、現在の発生源を押さえるということで、解体現場や処分場に注目してきているのは、良い流れ。解体現場については、現在の事前調査や解体改築作業基準などがしっかり適用されているかを確認すべき。(寺園委員)
- ✓ 基本的には、周辺環境における作業労働者の作業環境の保全が第一ですので、今後の改善等について要望したい。(山崎座長)
- ⇒確認事項をチェックリストに追記し、現地での確認を行うように努める。(事務局)

●議題（１）：令和５年７月豪雨災害時調査（秋田市）について

＜事務局より、令和５年７月豪雨災害調査の結果について報告＞

- ✓ 当該仮置場は、飛行場の跡地であり全て平らである。このような場所に廃棄物を置くのはどうかと思った。海岸からの風が強い所に廃棄物を置くのは、濃度が低くても拡散しやすいということ。秋田市の事情もあるが災害廃棄物の置く場所については、配慮が必要なのではないかという意見があったことを記録してほしい。（平野委員）

⇒ご意見を踏まえ、報告書へ記載する。（事務局）

- ✓ 今の分別状況はどうだったか。アスベストが入っているかもしれないものに区分があるので、分別状況だけ聞かせてほしい。（貴田委員）

⇒基本アスベストは仮置場に入れないことが徹底されていた。ただし、レベル３のものに関して、地点図にも石綿含有廃棄物と記載がされているが、石こうボードや外壁材等が搬入されているのを確認している。レベル１、レベル２建材は確認できなかった。（事務局）

●議題（２）：令和６年度アスベスト大気濃度調査計画案について

＜事務局より、令和６年度アスベスト大気濃度調査計画案について報告＞

【環境省より能登半島地震の被災地の調査について補足説明】

現在、環境省では災害廃棄物処理の関係を中心に支援を行っているところ。アスベスト大気濃度調査に関しては、解体または被災建物周辺等での調査実施について、石川県と現在調整中である。早ければ年度内に一部で調査を開始する予定としている。結果については、来年度の検討会でお知らせしたいが、特に注意すべき結果がでた場合は、検討会委員に個別に相談させて頂くことも考えている。

- ✓ 来年度のモニタリングについて、福井県、富山県、新潟県でも改修、解体が進むので検討してほしい。（平野委員）
- ✓ 今後、災害廃棄物が多く出るので、市民等に対して十分なばく露防止を徹底しないと二次災害の恐れがあるので、それも配慮した調査を早めに対応した方がいいのではないかと思いますので、環境省にお願いしたい。（平野委員）

⇒各自治体に確認し、要請があれば対応したい。まずは、石川県内にて、大気濃度調査を実施する予定。（環境省）

●議題（３）：その他

特になし

【閉会】

以上